

## 東京大学地震研究所共同利用研究集会

### 『超多点・稠密観測で迫る、地球内部活動・構造研究の新展開』

日時 2018年9月7日(金) 10:00 - 18:30

場所 東京大学地震研究所1号館2階 セミナー室

#### プログラム

10:00 - 10:20 栗原亮 (東京大学地震研究所)

『鳥取県西部と全国の活火山で発生する深部低周波地震活動の特徴』

10:20 - 10:40 小原一成 (東京大学地震研究所)

『スロー地震の発見と稠密観測の貢献』

10:40 - 11:00 高木涼太 (東北大学大学院理学研究科)

『ノイズ相関関数のアレイ解析 (仮)』

11:00 - 11:20 前田拓人 (弘前大学理工学研究科)

『地震波動場のイメージングにむけて』

11:20 - 11:40 西田究 (東京大学地震研究所)

『Environment seismology に向けて: 多点のデータをいかに料理するか』

(休憩)

13:00 – 13:20 松澤孝紀（防災科学技術研究所）

『スロー地震の数値シミュレーションと長期モニタリング』

13:20 – 13:40 内出崇彦（産業技術総合研究所）

『地震発生場の理解に向けた地震波解析(仮)』

13:40 – 14:00 齊藤竜彦（防災科学技術研究所）

『剪断ひずみエネルギー変化の可視化：地震と測地の多点稠密観測』

14:00 – 14:20 野田朱美（防災科学技術研究所）

『地震間の弾性・非弾性歪み解析による応力蓄積の評価手法の検討』

14:20 – 14:40 上野友岳（防災科学技術研究所）

『Hi-net 記録から推定した小地震のモーメントマグニチュード』

14:40 – 15:00 土井一生（京都大学防災研究所）

『斜面地震学における地震観測の新展開』

（休憩）

15:20 – 15:40 酒井慎一（東京大学地震研究所）

『今後の稠密観測 ～1000を超えたら人力では無理～』

15:40 – 16:00 吉田圭佑（東北大学大学院理学研究科）

『2011年東北沖地震の誘発地震活動に見られる応力・断層強度と

地震活動・震源過程の関係性（仮）』

16:00 – 16:20 行竹洋平（温泉地学研究所）

『メカニズム解の Misfit 角を用いた応力場不均質性の推定』

16:20 – 16:40 今西和俊（産業技術総合研究所）

『微小地震の non-double couple 成分を推定する解析手法の開発と観測計画』

16:40 – 17:00 加藤愛太郎（東京大学地震研究所）

『0.1 満点観測～地震観測と地質調査をつなぐ新しい架け橋～』

17:00 – 17:20 松本聡（九州大学大学院理学研究院）

『0.1 満点観測で見えてきたもの – 成果と今後の研究の展開 –』

17:20 – 18:30 今後の計画についてフリーディスカッション